

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02784

研究課題名（和文）卒業記念画にみる図画題材の通史的分析和作品資料の活用に関する研究

研究課題名（英文）Historical Analysis of the Subject Matter of Graduation Commemorative Artworks and Research on the Use of the Artworks

研究代表者

蜂谷 昌之（HACHIYA, Masayuki）

広島大学・人間社会科学研究科（教）・准教授

研究者番号：60510542

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、富山県高岡市の小学校に保管される卒業記念画を対象に、作品の画題及び題材に関する調査を行い、図画教育の歴史的展開を実証的に明らかにしようとしたものである。作品に関する調査の結果、大正期及び昭和前期の作品に明治期以降に発行された小学校及び中等学校用図画教科書を手本にしたとみられる作品が多く残されており、花や鳥、野菜、道具、風景などを臨画する教育実践の一端を明らかにすることができた。また、卒業記念画を活用した学校独自の取り組みを調査し、地域とのつながりをつくる卒業記念画の意味について考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、卒業記念画の分析を通して、図画教育がどのように行われてきたのかを実証的に検証するものである。学校に保存される児童画に描かれた画題や題材の把握を行う本研究は、美術教育史研究、特に地方における図画教育実践史の実態解明に貢献するものと考えられる。また、卒業記念画の活用に関する調査を行い、これからの学校と地域のあり方を考える契機としたい。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to empirically clarify the historical development of Japanese art education by investigating the titles and subjects of graduation commemorative artworks preserved at elementary schools in Takaoka-city, Toyama, Japan. As a result of research on the students' creations, many artworks created during the Taisho and early Showa eras appeared to have been modelled after art textbooks for elementary and secondary schools published during and after the Meiji era. The study, therefore, revealed some aspects of teaching practice that engaged copy images (e.g., flowers, birds, vegetables, tools, landscapes, and more). This study also investigated the school's efforts to use the artworks and considered their meaning in making connections with the community.

研究分野：教科教育学

キーワード：図画教育史 児童画 図画題材 図画教科書 教育実践史 地方教育史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

富山県高岡市立博労小学校(以下、博労校と略す。)及び平米小学校(以下、平米校と略す。)には、創立当初から卒業記念作品が保管されている。校区の隣接する両校は創立百年を超える歴史があり、卒業時に児童が図画や習字を残す取り組みを続けてきた。両校の卒業記念作品は、一部欠落があるものの教育の歴史を今に伝えるものであり、児童の描いた卒業記念画は、明治期以降の図画表現の変遷や教育実践の実態を掴むことのできる貴重な史料である。

両校の卒業作品のうち、博労校の図画作品に関しては同校教員らによる調査や大学の研究グループによる調査を通して作品概要の報告や表現形式による分類などが行われてきた。本研究の代表者による調査では、明治から昭和期までの作品分析や教育実践に関する報告を行い、平米校の作品も含め、全国的な教育実践の動向を踏まえ両校の図画教育の実相を明らかにしてきた。しかし、卒業記念画にはいったい何が描かれてきたのか、特に画題の正確な把握や、児童作品と図画教科書との関係を明らかにする詳細な調査は十分に行われてきたとは言えない。児童は何をみて何を描いてきたのか、初等図画教育の成果物とも言える卒業記念画の画題、題材の調査を行い、図画教育実践の一端を明らかにしたい。

博労校では卒業作品展が毎年開催されているほか、児童が学習発表の課題として卒業作品の歴史や図画表現を学習するなど、図画教育や学校独自の取り組みとして作品が活用されている。こうした活動は学校や在校生と卒業生、地域をつなぐ有効な手段となっており、地域における学校のあり方を考える好事例と言える。卒業作品の活用に関する調査を通して、卒業作品の意味や学校の果たす役割について検討したい。

### 2. 研究の目的

本研究は、富山県高岡市の学校に保管される明治期以降の卒業記念画を手掛かりとして、図画表現にみられる画題及びその指導過程を含む題材に関する研究を行い、図画教育の歴史的展開を実証的に探究するものである。また、卒業作品が学校と地域社会とのつながりをつくる材料となっていることに着目し、多世代交流を促す卒業作品について考察し、卒業作品の意味や学校の果たす役割について検討する。

### 3. 研究の方法

博労校及び旧平米校(令和4年閉校、現高岡市立高陵小学校)に保存されてきた卒業記念画の分析を中心に、図画教科書、教師用指導書等の資料調査を行い、図画の画題及び題材を整理し、図画教育の実態を明らかにすることを目指した。卒業記念画の調査では、博労、旧平米両校の作品資料の整理及び撮影などの進捗に合わせ、これまで調査対象としてこなかった高等科児童作品の調査から進め、大正及び昭和期の作品を中心に、大正・昭和期高等科児童作品の調査、昭和前期尋常科児童作品の調査、大正期尋常科児童作品の調査、という順に進めた。特に本研究では卒業作品に描かれた画題、題材の特定を進めるため、明治期から昭和戦前期にかけて発行された図画教科書の調査を行い、両校の卒業記念画と照合し、手本の特定を進めた。また、毛筆画教科書を参考にしたとみられる作品が多く残されていたことから、毛筆画教科書の分析を行った。卒業記念画に関する活用実態の調査では、学校関係資料などを収集、分析し、卒業記念画を活かした教育活動と地域との関係構築の実態について検討した。

### 4. 研究成果

#### (1)高等科児童による卒業記念画の調査

博労校及び旧平米校の卒業記念画には、尋常科第6学年児童による作品とは別に大正期及び昭和前期に卒業した高等科第2学年児童の作品(博労校は大正12年度から昭和13年度作品まで、平米校は大正14年度から昭和11年度作品まで)が残されている。作品調査を進める中で、高等科児童の作品に模写とみられる作品が一定数あることが分かり、画題の正確な把握を行うため、図画教科書の図版を確認することとした。今回の調査においては、高等科第2学年は中学校及び高等女学校の第2学年にあたることから、小学校用教科書のほか、当時発行されていた中等学校用図画教科書を参照することとした。

調査の結果、高等科児童による卒業記念画には、主として模写や図案、静物及び風景写生画等が含まれていたことや、中等学校で使用されていた図画教科書も参考にしていたことを明らかにすることができた。また、教科書の写生画題材を模写させるなど、自由画運動後であっても模写を重視していた実態を掴むことができた。博労校の作品には図案や花鳥、人物が多く描かれ、考案画には図案や友禅模様などが含まれていた。一方、平米校の作品には風景写生画やクレヨン画の流行という自由画教育運動の影響がみられた。また、異校種の教科書使用が確認できたことは、図画教育の史実として重要であると考えられる。指導過程の実態に迫るため、教科書の教師用書の内容を踏まえ当時の作品をみてみると、教科書の図版に描かれたものの特徴を理解して、丁寧に彩色していた様子がうかがえる。また、図版を参考にする過程で、単純な模写ではなく児童自身でアレンジするなど表現における創意工夫も確認することができた。例えば、静物画の模

写をする際も、描かれたものの位置を変えたり、元の図には描かれていない部分を想像して描き加えたりした作品が残されていた。さらに、風景画の模写でも遠近感を意識して色を変え、描き込み過ぎないように簡略化するなど児童の創意工夫が作品に現れていたことから、当時の図画指導において児童の表現意欲を引き出す指導がなされていたものと思われる。また、教師用書の解説にある指導方法では写生題材として任意のモチーフと描法で取り組む題材も模写作品として残されていたことから、写生画より模写が適当とする教師の判断があったのかもしれない。模写を通して構成や観察、表現の力を身に付けようとする学びの実態がうかがえ、それに価値を見出す教師の指導姿勢があったとも考えられる。

## (2) 昭和前期尋常科児童作品の再調査

以前の調査で、大正期の自由画教育後の作品に教科書等の模写が多く残されていたことを踏まえ、当時の図画教育において臨画が再び指導の方法として浮上したのではないかと捉え、この時期を「揺り戻しの時代」として考察を行った。高等科児童の卒業記念画の分析にあたり、中学校や高等女学校で使用されていた図画教科書を確認したところ、中等学校用図画教科書の図版を手本にしたとみられる作品があることを明らかにしたが、調査の過程で、尋常科作品にも中等学校の教科書掲載図版を手本としたとみられる作品があることに気づき、昭和前期の作品(博労校は昭和15年度作品まで、平米校は昭和11年度作品まで)の再調査を行うこととした。

この期間の小学校図画教科書は、大正期の自由画教育運動によりあまり使用されることはなくなったといわれるが明治後期に発行された国定教科書と、昭和期発行で同じく国定教科書の『小学図画』を挙げることができる。一方、中等学校用図画教科書は検定教科書が使用されていた。金子一夫は、明治から昭和戦前期までの図画教科書に関して、明治半ばの検定制度発足以降、昭和18(1943)年に国定化されるまで中等学校用の図画教科書は検定教科書として校種別に発行されており、大正期及び昭和戦前期の教科書は、西洋画、日本画、図案、色彩等を編集した教育的図画教科書、もしくは用器画教科書であったと指摘している。今回の再調査では卒業記念画の表現内容を踏まえ、教育的図画教科書を対象に照合を行うことにした。

調査の結果、両校の尋常科児童による卒業記念画に、中等学校用図画教科書の掲載図版を手本にしたとみられる作品があり、それらは林檎やバナナなどの果物、野菜、椿や薔薇などの花と花器、本、茶器、鞆、鍋、針箱、魚、貝、鳥、山や街並みなどの風景、図案などであったことがわかった。調査で確認できた中等学校用図画教科書は、『新定図画帖』、『中等図画教科書』、『女子図画臨本』、『現代図画』、『最新図画』、『図画新選』、『美育教典』、『日本図画』などであった。また、教科書の絵をそのまま模写した作品のほか、並べ方を変えた作品、別の図版の絵を合成した作品、教科書の絵を基本に別のものを加えた作品、図案を静物画のように描いた作品などもあり、工夫した画面構成をみることができた。教科書の図版を参考に彩色や組み合わせなどの工夫をし、一つの作品として仕上げようとする姿勢がうかがえる。当時の図画指導においては作品制作のための選択肢を多く提供し、発展した表現を目指す働きかけがなされていたのではないかと推察される。

## (3) 大正期尋常科児童作品の調査

高等科児童による作品の調査及び昭和前期の作品の調査を通して、小学校における図画作品制作に中等学校用教科書の使用実態があった、という新たな知見を得ることができた。臨画作品の多い明治や大正期の作品にも同様の実態があるのではないかと考えられることから、異校種の教科書も視野に入れ、他の時代の作品調査を進めることとした。このうち、大正期尋常科児童作品については画題の特定は行っていなかったため、両校の大正期尋常科児童作品と図画教科書掲載図版を照合し、児童の描いた卒業記念画の画題、題材の詳細な把握に取り組みすることとした。

昭和47(1972)年に発行された『富山県教育史』には、大正期の臨画教育について、「指導者の間にはよい臨本を数多く集めればよい指導ができると考えた人が多くみられる」と富山県の状況が記されている。また、長瀬達也は秋田県自由画教育の研究報告で児童作品を取り上げており、大正7(1918)年の小学5年生の作品に高等女学校用図画教科書に掲載された図版の模写があることを特定している。長瀬は、当時の教師が臨本を広範囲に、かつ積極的に探し、描かせていたと考えられると指摘している。

卒業記念画と図画教科書との照合を行った結果、大正期の卒業記念画制作において、尋常科児童が小学校及び中等学校用につくられた多くの教科書を使用していた実態を見出すことができた。小学校教科書では国定教科書のほか、明治期に発行された『小学図画帖』、『帝国毛筆新画帖』、『小学毛筆画』、中等学校教科書では『中等日本臨画帖』、『女子高等画帖』、『女子毛筆画臨本』、『新定図画帖』、『中等図画教科書』、『高等女学校図画教科書』など毛筆画及び教育的図画教科書を主として参考にしていただことがわかった。中学校用、高等女学校用の別や改訂版など複数の教科書で掲載された図版もあることから、制作時にこれら全ての教科書が使用されたかは断定できないが、小学校の教室で卒業記念画制作の際、中等学校の図画教科書を参考にしていただことが明らかとなった。広く臨本を求めた教育実践の状況を裏付ける結果といえる。特定した画題には植物、動物、生活道具、風景などがあり、百合、薔薇、牡丹、桔梗、朝顔、椿などの花、雀、鶴、鳥などの鳥は繰り返し描かれ、児童に好まれていたようである。また、モノクロの図を描く際に児童自ら彩色を施したり、主題に関連するものを追加したり、他の図版を組み合わせたたりした作品があり、創意工夫した表現をみることができた。

一般に、大正期の自由画教育運動までの小学校図画教育は、国定教科書を使用した教育実践が行われていたという理解があるだろう。小学生の卒業作品の臨画であれば、第6学年用の国定教科書を手本にしたものと考えられることができるが、博労、旧平米両校の卒業記念画はこうした理解を覆すものであり、中学校や高等女学校で使用されていた図画教科書の図版を手本に、様々な題材を工夫しながら描いていた。先述したように、当時、教師の中には多くの臨本を集めれば、それが良い指導に結び付くと考えていた人が多かったとの指摘があるが、両校の卒業記念画は充実した資料をもとに残されたことを示すものであった。

#### (4)毛筆画教科書の調査

卒業記念画で多く描かれた毛筆画教科書のうち、明治時代後期に発行された国定教科書と高等女学校用に発行された毛筆画教科書を取り上げ、題材の内容について分析を行った。そのうえで、それら教科書の図版を手本に描いたとみられる児童画の分析を行い、20世紀初期に行われていた毛筆画教育について、今日の教育実践との違いを踏まえ考察した。

#### (5)作品の活用に関する調査

卒業記念画の活用に関する調査では、博労校において、卒業作品を収集、保存する取り組みがどのように行われてきたのかを、同校に勤務していた教員の活動などに注目しながら、学校関係資料の調査などをもとにまとめた。調査では一人の教師の貢献に焦点をあて、作品の整理や分析、児童の学習活動など卒業作品の活用に尽力した教師について報告した。また、卒業記念画を活用して児童や教師、卒業生の交流を創出していることに着目し、学校独自の文化としての卒業記念画の役割について考察した。

#### (6)今後の展望

本研究で特定した作品以外に、模写とみられる作品があると思われる。特に近代の卒業記念画には臨画作品が多くあるので、その全容を解明するため、図画教科書やそれ以外の手本の調査を行い、特定を進めたい。その際、図画教科書の分析や掲載図版の傾向を把握し、手本の絵を児童がどのように描いたのかという教科書と児童画との関係を探究していきたい。

#### <引用文献>

博労小学校史編さん委員会編、博労小学校史、高岡市立博労小学校、1971、pp.222-229、及び高岡市立博労小学校編、博労児童作品史、高岡市立博労小学校、1981

土屋昌義（代表）、100年間の小学校図画作品の軌跡と表現分析（研究成果報告書）、東京学芸大学、2003

明治期の作品研究に、蜂谷昌之、明治期における図画教育に関する研究 - 博労小学校所蔵資料及び図画作品の分析から -、美術教育学研究、50、2018、pp.297-304、博労、旧平米両校の作品を対象にした報告に、蜂谷昌之、戦後の図画教育変遷に関する研究 - 昭和20～30年代の図画作品に注目して -、美術教育学研究、49、2017、pp.289-296などがある。

蜂谷昌之、博労小学校所蔵高等科児童図画作品の研究 - 大正期及び昭和期の作品を対象として -、美術教育学研究、52、2020、pp.297-304、及び蜂谷昌之、平米小学校所蔵図画作品の研究 - 大正期及び昭和期の高等科児童作品を対象として -、美術教育学研究、53、2021、pp.193-200  
蜂谷昌之、昭和前期における図画教育の変容 - 高岡の二つの小学校所蔵作品を手掛かりとして -、美術教育学研究、48、2016、pp.321-328

金子一夫、戦前期検定済図画教科書一覧(1) - 明治期図画教科書 -、茨城大学教育学部紀要(教育科学) 65、2016、pp.15-34、及び金子一夫、戦前期検定済図画教科書一覧(2) - 大正・昭和期図画教科書 -、茨城大学教育学部紀要(教育科学) 65、2016、pp.35-46

蜂谷昌之、卒業記念画に関する研究 - 昭和前期に制作された尋常科児童作品への再調査 -、美術教育学研究、54、2022、pp.241-248

富山県教育史編さん委員会編、富山県教育史下巻、富山県教育委員会、1972、p.1032

長瀬達也、秋田県自由画教育の研究(1) - 自由画教育登場以前の秋田県図画教育について -、美術教育学、24、2003、p.270

蜂谷昌之、博労小学校所蔵大正期尋常科児童図画作品に関する研究 - 図画教科書掲載図版との関係に着目して -、美術教育学研究、55、2023、pp.241-248、及び蜂谷昌之、大正期尋常科児童図画作品に関する研究 - 旧平米小学校卒業記念画と図画教科書掲載図版との関係を中心に -、美術教育学研究、56、2024、pp.225-232

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 蜂谷昌之	4. 巻 56
2. 論文標題 大正期尋常科児童図画作品に関する研究 - 旧平米小学校卒業記念画と図画教科書掲載図版との関係を中心に -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 pp.225-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蜂谷昌之	4. 巻 55
2. 論文標題 博労小学校所蔵大正期尋常科児童図画作品に関する研究 - 図画教科書掲載図版との関係に着目して -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 241-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19008/uaesj.55.241	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 蜂谷昌之	4. 巻 54
2. 論文標題 卒業記念画に関する研究 - 昭和前期に制作された尋常科児童作品への再調査 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 241-248
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19008/uaesj.54.241	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 蜂谷昌之	4. 巻 53
2. 論文標題 平米小学校所蔵図画作品の研究 - 大正期及び昭和期の高等科児童作品を対象として -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 193-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19008/uaesj.53.193	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 蜂谷昌之	4. 巻 52号
2. 論文標題 博労小学校所蔵高等科児童図画作品の研究 - 大正期及び昭和期の作品を対象として -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 297-304
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19008/uaesj.52.297	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Masayuki Hachiya
2. 発表標題 A Study of Brush Painting Textbooks and Children's Artwork in Japan's Early 20th Century
3. 学会等名 International Society for Education Through Art, World Congress 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 蜂谷昌之
2. 発表標題 旧平米小学校卒業作品にみる大正期尋常科児童臨画作品
3. 学会等名 第62回大学美術教育学会香川大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masayuki Hachiya
2. 発表標題 A Teacher Who Contributed to Art Education Practice in an Elementary School Located in a Rural Area of Japan
3. 学会等名 2019 International Society for Education Through Art World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masayuki Hachiya
2. 発表標題 A Connection through Students' Art Expressions from the 20th Century
3. 学会等名 The 7th Roundtable Meeting of Asia-Pacific Network for Holistic Education (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Masayuki Hachiya	4. 発行年 2023年
2. 出版社 InSEA Publications	5. 総ページ数 123
3. 書名 "A study of brush painting textbooks and children's artwork in Japan's early 20th century" InSEA World Congress 2023 Programme and Book of Abstracts	

1. 著者名 Masayuki Hachiya	4. 発行年 2020年
2. 出版社 InSEA Publications	5. 総ページ数 867
3. 書名 "A Teacher Who Contributed to Art Education Practice in an Elementary School Located in a Rural Area of Japan" InSEA 2019 World Congress Proceedings	

1. 著者名 Hachiya, Masayuki	4. 発行年 2020年
2. 出版社 InSEA Publications	5. 総ページ数 201
3. 書名 "A teacher who contributed to art education practice in an elementary school located in a rural area of Japan" InSEA 2019 World Congress Booklet of Abstracts	

〔産業財産権〕

〔その他〕

蜂谷昌之、博労小学校 卒業作品の120年、富山高岡市立博労小学校創立120周年記念式典記念講演、2021.6

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------